

## 令和5年3月定例記者会見要旨

開催日時 令和5年3月17日（金）午前10時30分 302会議室

（総務部長）皆さんこんにちは。日頃より大変ありがとうございます。ただいまより3月の定例記者会見を開始します。よろしくお願いいたします。

（市長）こんにちは。今年度最終の定例記者会見になりました。1年間記者クラブの皆さんには、市政に対するご協力を本当にありがとうございました。

今日の記者会見は4月の日程からご説明させていただきたいと思います。来年度は4月3日午前10時から年度始めの式を大会議室で行います。この時に市長表彰を行うこととしています。令和5年市長表彰の9名を決定いたしました。今まで市政にご支援、ご協力いただいた皆さんの功労を表彰したいと思います。

本日人事異動の発表となりましたが、新たにゼロカーボンシティ推進室を環境課に設けます。新しい年度に全庁を挙げて取り組んでいく形をお示しする設置式を開催しますので、皆様にも取材をいただけたらと思っております。設置式は環境課で午後1時から行います。市役所では年度初日に新入職員をお迎えし、辞令交付を行います。諏訪市全体の新入社員の歓迎大会は4月5日の午後3時30分から文化センターで開催いたします。翌日6日には小中学校の入学式、長野県諏訪清陵高等学校附属中学校も同日の入学式が予定されております。昨日、一昨日は諏訪市内の小中学校の卒業式を挙行させていただきましたが、それぞれ報道でも取り上げてくださりありがとうございました。4月10日の9時から第64回諏訪湖開き、コロナの関係もあり八剣神社が開催場所になっています。特に資料は付けてありませんが、4月1日に諏訪湖畔で受動喫煙防止重点区域周知啓発行動を行う予定です。皆さんにも注目をいただいております諏訪湖祭湖上花火大会の第1回実行委員会を4月1日に予定しています。高島城祭の実行委員会や、よいてご祭りの実行委員会など、イベントへ向かって会議が入っております。4月9日に県議会議員一般選挙、23日に市長・市議会議員一般選挙でありますので、行政としましては大事な事務を取り扱うこととなります。4月29日には霧ヶ峰の草原再生作業も入っております。予定の一覧をご覧ください、ぜひ取材をお願いしたいと思います。

教育委員会の関係ですが、お手元に配布させていただきました収蔵作品展「旅する視線」は、3月25日から5月14日の開催期間で行います。また、同時開催で「令和2、3年度修復完了作品お披露目展」もごございます。現在1400点を超える収蔵作品がごございますが、「旅」をテーマに作品を選出して展示します。春という旅立ちの季節に合わせて、描かれた旅先の情景を見つめ、あるいはまだ見ぬ場所を創造して制作された作品に視線を向けるというテーマがあります。教育委員会の4月行事予定表も添付させていただきました。原田泰治美術館では、4月21日の10時30分から追悼展「原田泰治の世界 鳥の目・虫の目 日本の旅」ということでオープニングセレモニーもごございます。それぞれの施設において、様々な企画をいたしておりますので、ぜひ取材をよろしくお願いいたします。

（総務部長）私から本日の内示、4月1日付けの人事異動について概略を説明させていただきます。まず組織の改正でございます。令和5年4月1日スタート時には、9つの部局、37の課、82の係という形になります。部等の変更はありませんが、市民環境部に新たにゼロカーボンシティ推進室を設置いたします。また、消防庶務課から消防課に名称変更、こちらは特に中身が変わるのではなく、課の名称が変わります。係等の変更ですが、税務課の係を市民税係、資産税係、収納係の3つの係にし、庶務・法人市民税・諸税に関する業務を市民税係に移管するものです。次に、こども課発達支援室をこども課こども応援係へ名称を変更するものです。

業務等も社会福祉課から若干移管するものもあります。消防庶務課庶務係が消防課消防係に変更、また、スポーツ課の中に新たに国民スポーツ大会準備係を設置します。附属機関等の変更ですが、こども課の出先機関の子育て支援係所管の児童センター、また保育係所管の子育て支援センターを、それぞれこども応援係へ移管するものです。兼務等の関係ですが、環境課職員全員がゼロカーボンシティ推進室を兼務するということとなります。また、スポーツ課に設置しました国民スポーツ大会準備係につきましては、課長を除く全スポーツ課職員をそれぞれ兼務とする内容でございます。異動の規模でございますが、今回対象になる人数は199名で中規模です。ただし、統一地方選挙が年度を跨ぐため、事務への影響等を勘案し、中規模異動ではあるものの、近年では比較的少人数の異動となっております。年度末の退職者は、昨年度に比べて1名増で19名、採用は新たに26名の職員を採用することとなっております。部課長職、部課長級の職員については、新たに女性の管理職（課長）が1名増えました。従前6名だったのが7名になり、割合にすると14.3%から16.7%と若干向上したものでございます。また、女性の係長職（園長先生等保育士を含む。）は、昨年と比べて6名増の42名、割合にすると昨年の35.6%が42%と、こちらも女性の登用は進んでいる状況でございます。

（記者との質疑応答）

○ゼロカーボンシティ推進室について

（記者）どのような取り組みをしていく部署なのか。市長が期待することは。

（市長）ゼロカーボン宣言をして以来、市役所といたしましては、すべての部署においてCO<sub>2</sub>削減、ゼロカーボンに向けての取り組みに関わっております。従って、全庁を挙げてそれぞれのセクションで取り組む課題や目標等を予算編成の段階から上げてくるようお願いをしてまいりました。すべてのセクションに絡む課題なので、どこにセクションを置くべきかいろいろな考え方はあると思いますが、今回はゼロカーボンシティ推進室という名前で環境課に設置し、全庁で関わろうという気持ちでおります。すべてのセクションにおいて、できることを自ら進んで取り組んで、それを統括する立場で推進室を設けます。当初は環境課の職員が兼務という形になりますが、その意識は全庁ということです。

○市長選について

（記者）選挙に向けた思いと、有権者にどんなことを訴えていきたいか。

（市長）改選期ということで、これからマニフェストの仕上げにかかってまいりたいと思っております。現在スタートしております第6次総合計画をはじめ、私の決裁によって出来上がった各種計画が進行中であり、未来ビジョンの策定が年度末に向かって今最終仕上げに入っていたり、地域公共交通計画も間もなく完成になってまいります。その他重要な計画がまとまる所々ありますので、それらとの整合も必要になってまいります。第7次男女共同参画の計画が出来上がっていますが、つい先日は教育大綱、教育振興基本計画がまとまってまいりました。そうしたものをしっかりと意識した上でのマニフェストにしたいと思っております。市民の皆さんに対しては、人口減少、高齢社会を迎えており、そうした中で様々な課題もあります。これから新たに社会を支えていく子供たちが行政や社会を引き継いでいくときに、重荷を背負わせておくことは私としては忍びない、という意味では今までよくできたものであって名残惜しいものであっても、勇気を持って決断し、一つの区切りをつけていくことも必要になってまいります。そうした決意を持ちながら、人口減少でも、高齢社会でも、魅力溢れる諏訪を作るという目標に理解をいただきながら、一つ一つの課題に果敢に挑戦していく思いでマニフェストを書かせていただきたいと思います。

（記者）対抗馬がない中での選挙準備についての受け止めは。

(市長) 私は立候補したのものとして、当然選挙戦がある前提のもとで準備を進めていただいています。新しい選挙事務所になる予定の臨時の後援会事務所の場所が固まり、15日から準備作業がスタートしております。事務所開きは25日の10時からで、関係の皆さんにご案内をお渡ししているところですが、私たちとしてはやるべきことを着々と進めている段階にあります。

#### ○マニフェストについて

(記者) 2期目のマニフェストの9割程度は達成あるいは着手している状況だが、次期に向けて力を入れる部分は。

(市長) 着手できなかったものは、例えば観光地としてのおもてなし感を出すことで、観光バスが通ったら市民みなでお手振り運動をやりませんか、とマニフェストに書きました。議員時代に全国各地へ行った時、新幹線が通るたびに職員がローテーションで線路の脇で手を振っていました。これにすごく刺激されてマニフェストに書きましたが、コロナで3年間観光バスが来なかったという状況がありましたので、もう一度リベンジをしようと思っています。その他、湖岸武津線、国道から諏訪湖までの、この地域における大きな門前通りのようなちょうど2kmの景観を整えることによって、観光地として、あるいはこの地域としてもムードを作れるだろうということで、今、近隣自治体の皆さんが進めてきていただいています。コロナ禍で、なかなか会議を開くことが難しかったと聞いておりますので、またリベンジして頑張りたいと思っています。

#### ○観光地のあり方について

(記者) スマートインターやサイクリングロード完成後の観光の形をどう考えているか。

(市長) スマートインター、サイクリングロードにつきましては、観光ランドデザインを作る段階で視野に入っています。アフターコロナになると、おそらくインバウンドも急速に回復してくるだろうとの推測もございます。そうしたいろいろな環境の変化をしっかりと捉えて、観光についても次のステップのバージョンアップに向けて準備を進めています。すでに、諏訪湖温泉旅館組合、観光協会、そして諏訪市の共同申請によって観光庁の予算をいただいた観光地の高付加価値化事業は一つの区切りができつつあり、ユニバーサルツーリズムで、障がいのある方やご高齢で旅を諦めていた方々が車椅子に乗ったままで観光を楽しめる施設が整いつつあります。また、昨年ワーケーションの対象地域ということで、経済同友会の方やプラチナ社会の三菱総合研究所がグループでのワークショップを諏訪の地で開催したり、そうした活動も着々と進んできております。霧ヶ峰は、KRTの認知度が深まってきており、新たな可能性に向かって今進んでいます。観光への影響はスマートインターやサイクリングロードが湖周にできるということで、自転車活用も八ヶ岳と連動したサイクリングトレイルの指定ができて、これもファンの皆さんには魅力の一つになってくると思いますし、徐々にバージョンアップしていると認識しています。

(記者) ユニバーサルツーリズムのワーケーションやKRTは、観光ランドデザインの具体化のためにキーポイントになってくるか。

(市長) グランドデザインというのは、それを見てくれた様々な事業主やアイデアをお持ちの方々が、こんなことができるのではないかと発想の根源になるようなツールのようなもので、気づきへの原点になる素材を散りばめた一覧表のつもりで作りました。それをイメージして目標を持った人たちがそれに向かってスタートを切っていることは、大歓迎であり、ランドデザインのどこか一つを目標にするといった意味での活用方法をお勧めしたいと思っています。

○国道20号諏訪バイパスについて

(記者) 事業化される見通しへの受け止めは。

(市長) いよいよ15日に国の審議会でお認めをいただきましたので、あとは予算が成立すれば諏訪バイパスの新規事業採択が決定することになりました。60数年前にバイパスの話が持ち上がり、50年前に一旦都市計画決定された事業が、平成25年にルートをもう一度見直す計画段階に取り上げていただき、10年くらいかかりましたが、ここで決定することになり、本当に感慨深いものがあります。半世紀以上に亘り関わってこられた方々の思いを振り返った時に、非常に重要な案件がまた動き出すことに感慨深いものを感じています。この課題につきましては、これからいよいよ事業をスタートいたしますが、詳細調査に入ったり、概略設計、詳細設計や用地買収等、本当にたくさんの関わりが出てまいります。また、国が事業主体なので、正式決定した以降に詳細な説明をお伺いしながら、事業進捗に沿って地元として協力すべき案件について、市民の皆さんの気持ちに寄り添いながら、事業が完成に向かって一步一步進んでいくよう努力していく所存であります。

(総務部長) それでは以上をもちまして3月の定例記者会見を終了します。どうもありがとうございました。